

Title	白井浩司先生の宿題
Sub Title	
Author	薩摩, 忠(Satsuma, Tadashi)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1982
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.44, (1982. 12) ,p.363- 364
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	白井浩司教授記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00440001-0363

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

から拝借した原書の一部を騰写版で印刷するため日曜日、永戸多喜雄氏の家に集った。(あれは永戸氏の家だったと思うが、記憶はたしかではない)

そしてそれからしばらくして、放課後あいた教室を利用して白井さんに来ていた。先輩の白井さんはその日から私にとっても白井先生に変わった。

我々が断りなしに(?)勉強していることをI教授が知って立腹された。私は無茶だと思った。

もう三十年前の思い出である。以来、三十何年、白井先生にはいろいろとお教え頂きお世話になってきた。三田に遊びにいくたび白井先生にこっそり読書会をして頂いた夕方のことを思いだす。

(作家・昭和二十三年仏文科卒)

白井浩司先生の宿題

薩 摩 忠

白井浩司先生が明年の三月で慶応義塾を定年退職なさ

るとうかがい、いまさらのように月日の流れの早さに驚いている。

わたしどもが慶応の大学予科に入学したのは、昭和二十二年の春のことである。当時は日吉の校舎がまだアメリカ軍から返還されていなかったなので、三の橋のおんぼろ校舎で授業が行われていた。なにしろベニヤ板一枚で仕切られていた教室だったから、後ろの席に坐ると、隣の教室の講義の声がよく聞こえた。このような教室で、わたしどもは、白井先生にアー・ベー・セーを教えていただいたのである。

その頃、先生は、三十歳を少し出られたくらいだったと思う。わたしどもは、試験が近づくと「ジャン・ポール・サルトルの話聞かせて下さい」などと言い出して、試験範囲が増えるのをなんとか阻もうとした。白井先生は、迷惑そうな顔をなさりながらも、時々サルトルのエピソードなどを話して下さったものである。

卒業後も、わたしの場合は、文芸家協会やベンクラブなどのパーティーで白井先生におめにかかる機会を得て

いた。そのような時には、先生はよく塾の先輩や後輩の方々に引き合わせて下さった。もう十数年も前のことから、お忘れになったかも知れないが、あるパーティーで石坂浩二さんを紹介して下さったのも、白井先生である。それから何日かして、ニッポン放送のSプロジェクトサーから電話があり、「朗読は、石坂浩二さんではいかがでしょう」と言う。この放送局で、「朝のグラビア」というプログラムをスタートさせようという企画があって、わたしにそれに毎回詩を書くことになっていたのである。先生にお引き合せいただいていたので、最初からこの作者と読み手の呼吸はぴったりとあってまことに楽しく仕事を続けることができた。その後、NHKの「夢のハーモニー」の特集番組でも、石坂さんに拙詩を読んでもらったが、先生にはどのようにお礼を申しあげていかかわらない。

白井先生は、時折、お電話を下さる。いつだったか、ジュリエット・グレコの歌ったサルトルのシャンソン「ブラン・マントオ街」のことでお電話いただいた時、

「これはそう急がないから……」と前置きされて、「レ・パピヨン・ド・ニューイというシャンソンの歌詞を知りたいのだが……」とおっしゃった。白井先生の宿題である。「急がないから」というおことばがあったので、こちらもものんびりと調べていたが、つい最近、それがジャック・ランティエという歌い手のレベルトゥールに入っていることを知った。「いくらそう急がないと言ったからと言っても、遅すぎるよ」とおっしゃるかも知れないが、近くその歌詞をお届けできると思う。

白井先生、ご退職の後も益々お健やかにお過ごし下さり、時には「そう急がないから」という宿題をお出し下さるのを、わたしは楽しみにお待ち申しあげる次第である。

（詩人・昭和二十七年仏文科卒）

“白井さん”と私

平田 敬

生れついで頭の悪さのためか、私の記憶は常に断片